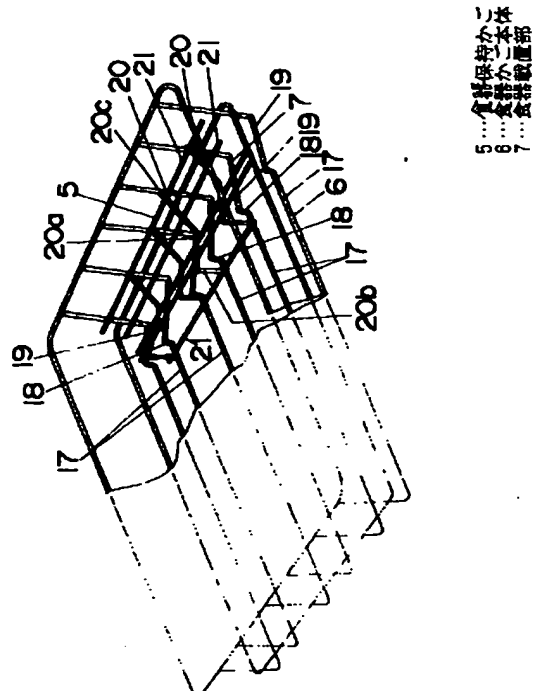


(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成7年(1995)10月17日

**A 4 7 L 15/50**

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全 4 頁)



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 食器洗い機本体内に収納配置される食器かごであって、食器を逆にした状態において食器を傾けた状態で保持する食器保持かごを食器かご本体に設けられた食器載置部に着脱自在に備えて成ることを特徴とする食器洗い機用食器かご。

【請求項2】 食器を逆にした状態において食器の糸底を形成する周壁の終端縁と、この周壁の終端縁と周壁の始端縁とを結ぶ線が略水平となるように食器を保持する食器保持かごを備えていることを特徴とする請求項1記載の食器洗い機用食器かご。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、食器を洗浄・乾燥させる食器洗い機に用いられる食器洗い機用食器かごに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】近年、洗浄・すすぎ・乾燥を順次行って食器を洗う食器洗い機が種々提供されており、これらの食器洗い機においては、箱状の食器洗い機本体内に食器洗い機用の食器かご本体6が出し入れ自在に納められており、食器かご本体6上に種々の食器を載せて洗うようになっている。ここで、湯呑等の食器2は逆さにした状態で食器かご本体6上に載せられる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、糸底3のある食器類、特に糸底3の深い湯呑等の食器2においては図6に示されるように糸底3内に多量の水が溜まる為、機器運転（洗浄→すすぎ→乾燥）が終了後、規定時間内の乾燥工程では糸底3内に溜まった多量の水を蒸発させることができず、糸底3内に多量の水が残っているものであり、運転終了後に食器2を使用する場合や食器2をみずや等の収納家具内に収納するために食器かご本体6より取り出す場合、糸底3に溜まった水が完全に乾燥させられている他の食器にかかって他の食器を濡らしてしまうという問題があった。また、他の食器を濡らさないように食器2を取り出したとしても収納家具内に収納する前に布巾で糸底3内に溜まった水を拭き取らなくてはならないという問題があった。

【0004】本発明は上記問題点の解決を目的とするものであり、糸底内に水が溜まったりするようなことなく食器を洗うことができる食器洗い機用食器かごを提供しようとするものである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項1の発明では、食器洗い機本体1内に収納配置される食器かごであって、食器2を逆にした状態において食器2を傾けた状態で保持する食器保持かご5を食器かご本体6に設けられた食器載置部7に着脱自在に備えたことを特徴とするものである。

【0006】請求項2の発明では、請求項1において食器2を逆にした状態において食器2の糸底3を形成する周壁4の終端縁aと、この周壁4の終端縁aと周壁4の始端縁bとを結ぶ線が略水平となるように食器2を保持する食器保持かご5を備えていることを特徴とするものである。

## 【0007】

【作用】請求項1の発明では、食器かご本体6の食器載置部7に食器保持かご5を設置し、食器保持かご5に湯呑のような食器2を逆さにして置くようにすると食器2が傾いた状態となり、このように糸底3が傾いた状態で食器2が置かれることで糸底3に溜まる水の量を少なくすることができるものであり、また、食器保持かご5を取り外すことで食器載置部7を皿や茶碗を置くためのスペースとして使用することができる。

【0008】請求項2の発明では、食器2の糸底3を形成する周壁4の終端縁aと、この周壁4の終端縁aと周壁4の始端縁bとを結ぶ線が略水平となるように湯呑2が置かれるものであり、糸底3に溜まる水の量を少なくすることができ、規定時間内の乾燥工程で糸底3内に溜まった水を蒸発させることができる。

## 【0009】

【実施例】以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳述する。本発明における食器洗い機は、図4に示されるように前面部に開閉自在な扉を備えた縦方向に長い長方箱状の食器洗い機本体1によって主体が構成されており、食器洗い機本体1の下面には支持脚8、9がそれぞれ設けられている。食器洗い機本体1の前面部に設けられる扉は下端の軸着部10を支点として開閉自在となった引倒し扉11であり、引倒し扉11の上部には引倒し扉11を開閉操作する場合に手で持つための把手部12が設けられていると共に把手部12の隣には食器洗い機による食器の洗浄時間や乾燥時間等を操作するための操作部13が設けられている。

【0010】上記食器洗い機は、図5に示されるようにキッチンキャビネット等のキャビネット14に埋め込むようにして設置されるビルトインタイプのものとされており、各支持脚8、9を設置面に載置するようにしてキャビネット14に設けられた設置凹所15内に収納配置されるようになっている。図5中16は食器洗い機と同じくキャビネット14に埋め込むようにして設置されたオープンである。

【0011】食器洗い機本体1内には複数の線材17によって受け箱状に形成された食器かご本体6が収納配置されており、この食器かご本体6は引倒し扉11を開いて食器洗い機本体1内に出し入れすることができるようになっている。この食器かご本体6は全面部にわたって皿や茶碗や湯呑等の食器2を置くことができるようになっているものであるが、端部には食器かご本体6に置かれる食器をある程度傾斜させた状態で置くための食器載

置部7が形成されている。この食器載置部7は図1に示されるように食器かご本体6の底部に位置する線材17の端部より上方に向けて突起部18を突出させ、突起部18の先部より斜め下方に向けて傾斜棒19を突出させることで形成されており、この食器載置部7には図2に示されるような食器保持かご5が着脱自在に取付けられるようになっている。

【0012】食器保持かご5は縦棒材20と横棒材21とをそれぞれ交差するように配置して構成されており、この食器保持かご5の取付けによって食器載置部7の上方に食器載置部7よりもさらに傾斜角度の大きい傾斜部分が形成されるようになっている。ここで、食器保持かご5の傾斜角度としては湯呑のような食器2を逆にした状態において食器2の糸底3を形成する周壁4の終端縁aと、この周壁4の終端縁aと周壁4の始端縁bとを結ぶ線が略水平となるように食器2を保持する傾斜角度となっている。

【0013】食器保持かご5を構成する縦棒材20は食器2が置かれることとなる載置棒20aの一端より下方に向けて下向き縦棒20bを一体に突設すると共に載置棒20aの他端より上方に向けて上向き縦棒20cを一体に突設して構成されており、この縦棒材20を複数隣合うように配置し、各縦棒材20と交差するように配置された横棒材21を各縦棒材20を構成する載置棒20aと下向き縦棒20bと上向き縦棒20cに連結して各縦棒材20を横棒材21にて連結することで食器保持かご5が形成されている。このように形成された食器保持かご5は隣合う各縦棒材20の下向き縦棒20aに連結された横棒材21を食器載置部7の前部に載置すると共に縦棒材20の載置棒20aと上向き縦棒20bとの間に配された横棒材21を食器載置部7の傾斜棒19上に載置するようにして図1、図3に示されるように食器載置部7上に載置されるようになっている。

【0014】しかして、食器かご本体6の食器載置部7に食器保持かご5を設置し、食器保持かご5に食器2を逆さにして置くようにして食器洗い機本体1によって食器洗い（洗浄・すすぎ・乾燥）が行われるものであり、食器保持かご5に逆さに置かれた湯呑のような食器2は食器2の糸底3を形成する周壁4の終端縁aと、この周壁4の終端縁aと周壁4の始端縁bとを結ぶ線が略水平となるように食器保持かご5上に置かれるものであり、糸底3に溜まる水の量を少なくすることができるものであり、規定時間内の乾燥工程で糸底3内に溜まった少量の水を蒸発させて無くすることができるものである。

【0015】そして、このように運転完了後には糸底3内に水が溜まらないようにできることで運転終了後に食器2を使用する場合や食器2をみずや等の収納家具内に収納するために食器かごより取り出す場合、糸底3に溜まった水が完全に乾燥させられている他の食器にかかって他の食器を濡らしてしまうことを防止すること

ができるものであり、また、規定時間内の乾燥工程で完全に乾燥させることができるために運転終了後に布巾等で拭く必要もないものである。また、食器保持かご5は着脱自在に食器載置部7に取付けられているために、食器保持かご5を取り外すことで食器載置部7を皿や茶碗等の食器を置くためのスペースとして使用することができるものである。

#### 【0016】

【発明の効果】請求項1の発明は、食器洗い機本体内に収納配置される食器かごであって、食器を逆にした状態において食器を傾けた状態で保持する食器保持かごを食器かご本体に設けられた食器載置部に着脱自在に備えているので、食器保持かごに傾けた状態で食器を置くことができるために食器の底に設けられた糸底が傾いた状態となり、糸底内に溜まる水を少なくすることができるものである。また、食器保持かごを取り外すことで食器載置部を皿や茶碗等の食器を置くためのスペースとして使用することができるものである。

【0017】請求項2の発明は、請求項1において食器を逆にした状態において食器の糸底を形成する周壁の終端縁と、この周壁の終端縁と周壁の始端縁とを結ぶ線が略水平となるように食器を保持する食器保持かごを備えているので、請求項1の効果に加えて食器の糸底を形成する周壁の終端縁と、この周壁の終端縁と周壁の始端縁とを結ぶ線が略水平となるように食器保持かごに食器を置くことができるものであり、糸底に溜まる水の量を少なくすることができ、規定時間内の乾燥工程で糸底内に溜まった少量の水を蒸発させて無くすることができるものであり、運転終了後に食器を使用する時や他の食器棚に片づける時にも布巾で拭き取る必要がなく、食器かご本体から取り出す場合にも他の食器を濡らすようなことがないものであり、手間を省いて家事作業を楽にすることができるものである。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す一部省略した斜視図である。

【図2】同上の食器保持かごを示す斜視図である。

【図3】同上の食器の保持状態を説明する説明図である。

【図4】同上の食器洗い機を示すものであり、(a)は正面図、(b)は側面図である。

【図5】同上の設置状態を示す一部省略した斜視図である。

【図6】従来例を説明する説明図である。

#### 【符号の説明】

1 食器洗い機本体

2 食器

3 糸底

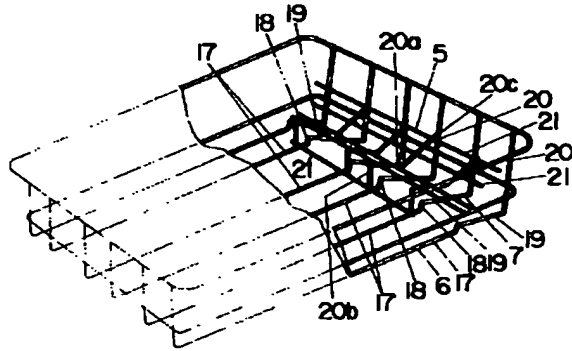
4 周壁

a 終端縁

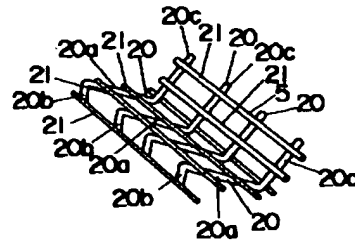
b 始端縁  
5 食器保持かご

6 食器かご本体  
7 食器載置部

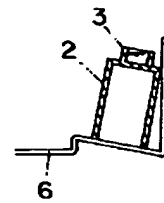
【図1】



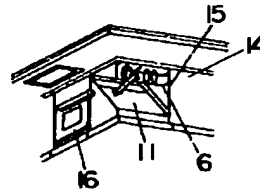
【図2】



【図6】

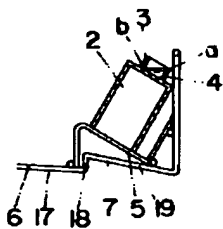


【図5】

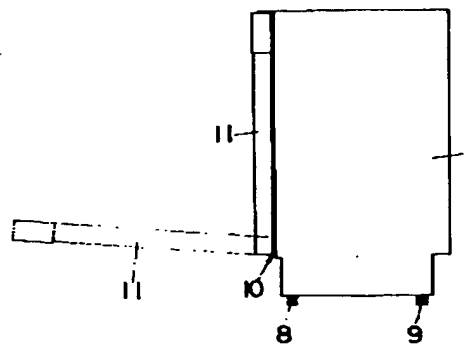
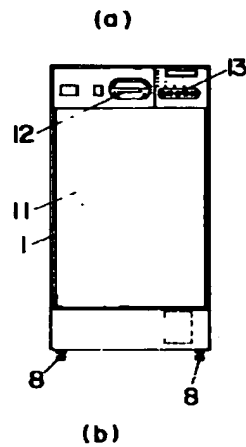


5...食器保持かご  
6...食器かご本体  
7...食器載置部

【図3】



【図4】



PAT-NO: JP407265254A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07265254 A  
TITLE: DISH BASKET FOR DISH WASHER

PUBN-DATE: October 17, 1995

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KURIBAYASHI, HIROTADA	
KITAMURA, JUNICHI	
NISHIMOTO, KENJI	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HARMAN CO LTD	N/A

APPL-NO: JP06059308  
APPL-DATE: March 29, 1994

INT-CL (IPC): A47L015/50

ABSTRACT:

PURPOSE: To keep the bottom rims of dishes inclined and reduce the water stored in the bottom rims by removably providing a dish holding basket inversely holding the dishes in the inclined state at a dish mount section provided on a dish basket main body.

CONSTITUTION: A dish basket main body 6 stored in a dish washer main body is formed with multiple wires 17 into a receiving box shape, and the dish basket main body 6 is provided with a dish mount section 7 for mounting dishes in the somewhat inclined state at the end section. Projections 18 are protruded upward from the end sections of the wires 17 located at the bottom section of the dish basket main body 6 at the dish mount section 7, and tilt rods 19 are protruded obliquely downward from the tips of the projections 18. A dish holding basket 5 intersectingly arranged with vertical rod